

令和6年10月～12月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和6年10月～12月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 対 象 堺市内に所在する事業所 800 社（回答企業 409 社 回答率 51.1%）

2 期 間 令和6年12月6日（金）～令和6年12月27日（金）

3 結果概要

今期（10月～12月期）の前年同期比を見ると、採算 DI が改善、売上高 DI、資金繰り DI がやや改善、雇用人員 DI が横ばい、業況判断 DI が悪化している。

来期（1月～3月期）の予測は、雇用人員 DI、業況判断 DI がやや改善、採算 DI が横ばい、売上高 DI がやや悪化、資金繰り DI が悪化となっている。

数値の推移としては、前回調査よりも改善した項目が多くなったものの、来期予測は悪化するという見方が多い印象である。業種別の前年同期比の指標では全体的に改善の項目が多いものの、業種ごとの業況に差があるため、引き続き市内企業の動向を注視する必要がある。

○業況判断	前年同期比の指標は悪化（ $\Delta 9.9 \Rightarrow \Delta 13.0$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 13.0 \Rightarrow \Delta 10.3$ ）
○売上高	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 10.6 \Rightarrow \Delta 8.3$ ） 来期見通しの指標はやや悪化（ $\Delta 8.3 \Rightarrow \Delta 10.8$ ）
○採算	前年同期比の指標は改善（ $\Delta 15.0 \Rightarrow \Delta 11.7$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 11.7 \Rightarrow \Delta 12.2$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標はやや改善（ $3.2 \Rightarrow 5.4$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $5.4 \Rightarrow 0.2$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 1.5 \Rightarrow \Delta 1.2$ ） 来期見通しの指標はやや改善（ $\Delta 1.2 \Rightarrow 1.7$ ）

問
い
合
わ
せ
先担 当 課：産業振興局 産業戦略部 産業企画課
電 話：072-228-7414
ファックス：072-228-8816

令和6年10月～12月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺商工会議所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 6 年 12 月 6 日（金）～令和 6 年 12 月 27 日（金）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率	
	建設業	200 社	100 社	50.0%
	製造業	200 社	102 社	51.0%
	卸売業	100 社	50 社	50.0%
	小売業	100 社	54 社	54.0%
	サービス業	200 社	103 社	51.5%
	全産業	800 社	409 社	51.1%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(10月～12月期)の前年同期比を見ると、採算DIが改善、売上高DI、資金繰りDIがやや改善、雇用人員DIが横ばい、業況判断DIが悪化している。

来期(1月～3月期)の予測については、雇用人員DI、業況判断DIがやや改善、採算DIが横ばい、売上高DIがやや悪化、資金繰りDIが悪化となっている。

数値の推移としては、前回調査よりも改善した項目が多くなったものの、来期予測については悪化するという見方が多い印象である。業種別の前年同期比の指標では全体的に改善の項目が多いものの、業種ごとの業況に差があるため、引き続き市内企業の動向については注視していく必要がある。

1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は悪化
($\Delta 9.9 \Rightarrow \Delta 13.0$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測
($\Delta 13.0 \Rightarrow \Delta 10.3$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業は3期連続で改善、建設業、サービス業は改善、小売業はやや改善、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は悪化。



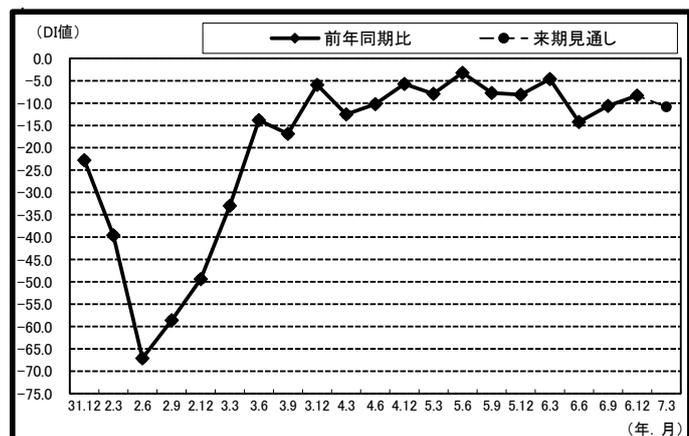
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標はやや改善
($\Delta 10.6 \Rightarrow \Delta 8.3$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測
($\Delta 8.3 \Rightarrow \Delta 10.8$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業は2期連続で改善、製造業、サービス業は改善、建設業は2期連続でやや改善、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



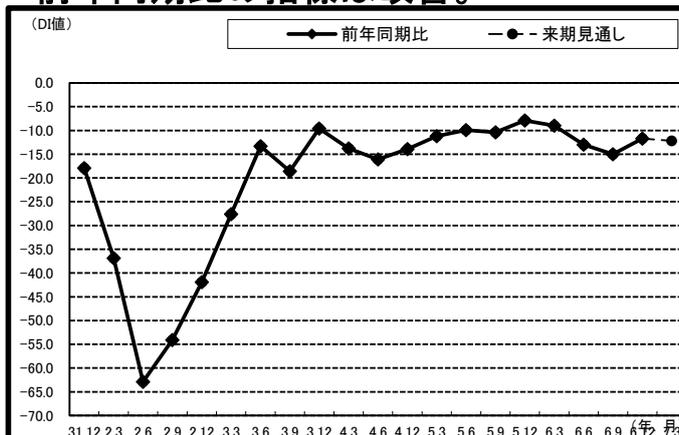
3. 採算の動向

・前年同期比の指標は改善
($\Delta 15.0 \Rightarrow \Delta 11.7$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測
($\Delta 11.7 \Rightarrow \Delta 12.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業、小売業、サービス業は改善、建設業、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は改善。



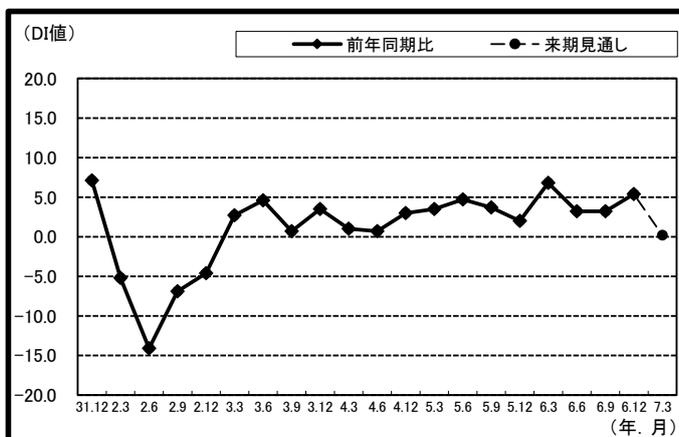
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標はやや改善
($3.2 \Rightarrow 5.4$)。

・来期見通しの指標は悪化と予測
($5.4 \Rightarrow 0.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業は改善、サービス業はやや改善、卸売業は横ばい、製造業、小売業はやや悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は横ばい
($\Delta 1.5 \Rightarrow \Delta 1.2$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測($\Delta 1.2 \Rightarrow 1.7$)

・建設業は改善、小売業は横ばい、製造業は2期連続でやや悪化、卸売業、サービス業は悪化。

・前年同期比の指標は横ばい。

